

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

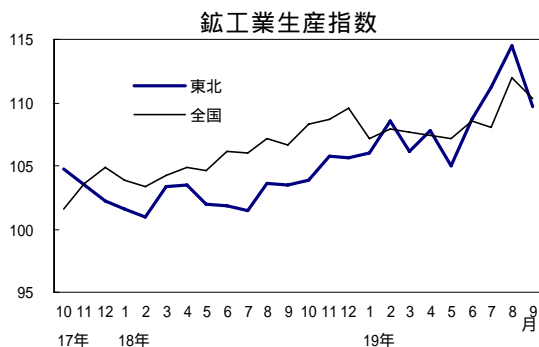
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 19 年 8 月）	今回（平成 19 年 11 月）	
鉱工業生産	緩やかに増加	増加傾向	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。

電子部品・デバイスは、モス型半導体集積回路が車載向けやデジタル家電向けに、サーミスタ・バリスタが携帯電話向けに、コネクタが車載向けにそれぞれ好調に推移したことから、増加している。食料品・たばこは、猛暑の影響からビール・発泡酒などは好調に推移したものの、清涼飲料、冷凍水産食品などが低調に推移したことから、おおむね横ばいで推移している。情報通信機械は、携帯電話・PHSや法人向けのパソコンなどが好調に推移したことから、増加している。一般機械は、半導体製造装置が国内外向けで、金型が車載向けやデジタル家電向けでそれぞれ好調に推移したことから、増加している。電気機械は、パソコン向けの蓄電池や電気測定器などが好調に推移したことから、増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子部品・デバイス	19.3	0.1	11.1	8.8	5.4
食料品・たばこ	12.9	1.1	0.1	1.2	4.8
情報通信機械	11.6	7.4	3.6	4.1	0.7
一般機械	8.6	7.2	5.3	4.1	2.1
電気機械	5.8	0.1	6.1	7.1	51.3
鉱工業	100.0	0.3	4.3	2.8	3.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

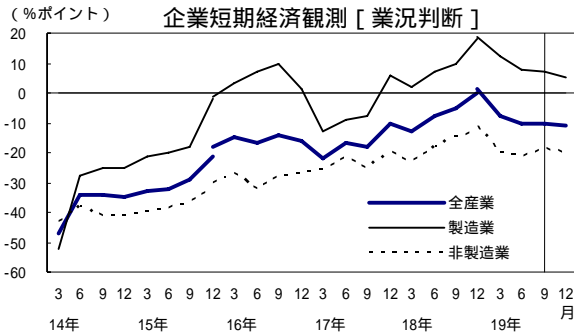
2. 7~9月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

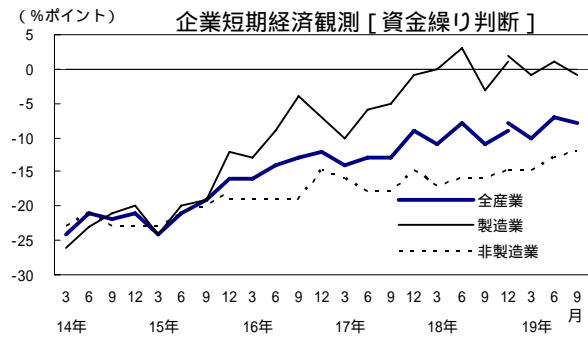
2. 平成19年9月の東北は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

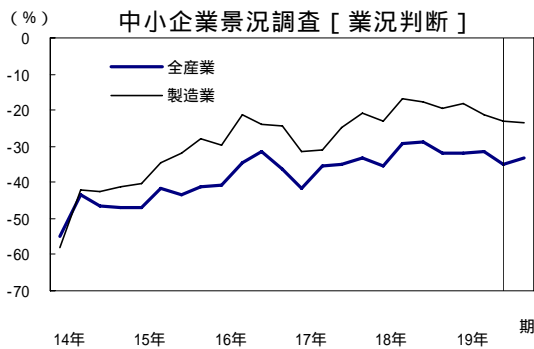
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年12月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

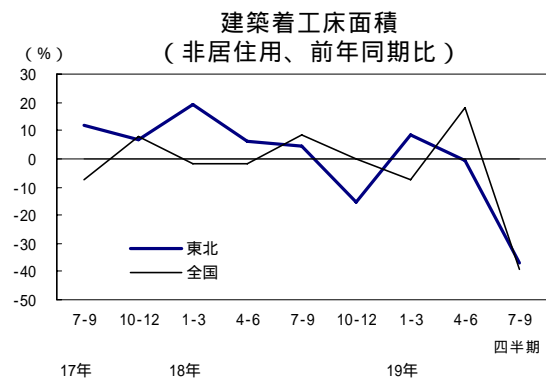
「半導体製品の単価は少しずつ低下しているものの、作業量は拡大中であり、企業努力の範囲で収益を出せている状況に変わらない(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	16.7	23.0(8.1)
製造業	22.8	60.6(12.5)
非製造業	10.9	17.3(0.1)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

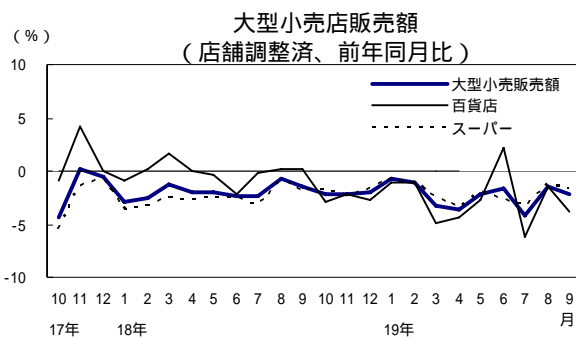
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、天候不順やクリアランスセールの前倒しの影響から夏物衣料、身の回り品が振るわず、飲食料品も生鮮食品が振るわなかったことから前年を下回った。8月は、その他の商品は化粧品などが好調だったが、衣料品は猛暑のため秋物が伸びず、身の回り品も振るわなかったため、前年を下回った。9月は、飲食料品は生鮮食品、総菜、菓子が好調で前年を上回ったものの、衣料品は、残暑の影響で秋物が振るわず、3か月連続で前年を下回った。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の10月の売上高は前年同月比で3.3%減となっている。

スーパーは、飲食料品は、酒や飲料が好調に推移したものの生鮮食品が振るわず、衣料品も8月には浴衣や水着に動きがみられたものの全般的に振るわなかったため、前年を下回った。景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

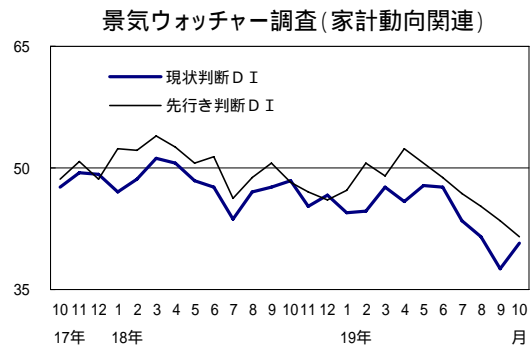
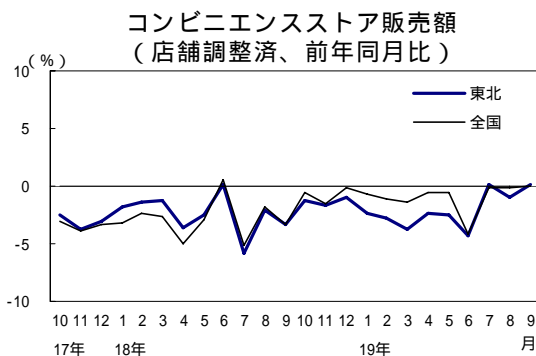
「ついで買いや衝動買いが明らかに減っている。商品内容よりも値踏みしている傾向が目立っている(一般小売店[書籍])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.1	1.7	2.5	2.5
百貨店	2.6	2.4	1.7	4.0
スーパー	2.0	1.4	2.7	2.1
コンビニ	1.3	2.9	3.1	0.3
景気ウォッチャー	46.7	45.5	47.1	40.9

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

